

東北ESDプログラム チャレンジプロジェクト

【プログラム概要集】

【お問合せ】

東北地方ESDチャレンジプロジェクト事務局

電 話：03-5532-0752

F A X：03-6744-1249

E - m a i l：info@tohoku-challenge.jp

特設ページ：https://www.eeel.go.jp/env/tohoku_esd_challenge/

プログラム概要集

～ 目 次 ～

○ 野菜から野菜をつくろう	．．．．	2
○ 地域まるごとウォークラリー	．．．．	3
○ 理想の森さがし	．．．．	4
○ 山と海をむすぶ「川」	．．．．	5
○ 地域の漁業を支えるつながり	．．．．	6
○ 自然とともに生きる農業	．．．．	7
○ 自然災害と地域との様々なつながり	．．．．	8
○ エネルギーと新しい東北を考える	．．．．	9
○ 3Rで Party しよう！	．．．．	10
○ 伝統文化から地域を伝える	．．．．	11
○ エントリーシート	．．．．	12
○ チャレンジ報告シート記載例	．．．．	13

【プログラムの特徴】

- 東北地方での新しい取り組みや活動を基につくられたESDプログラムです。
- 各プログラム毎に、学習指導要領での対応科目やESDの視点について参考設定しています。
- 地域資源などを活用したフィールドワークや体験・実践プログラムが中心となっています。
- 各プログラムの要点を押さえながら、柔軟に工夫を加えて実施して頂くことができます。

【エントリー方法】

エントリーは、特設ページ(https://www.eeel.go.jp/env/tohoku_esd_challenge/)のエントリーフォームから簡単におこなえます。また、12ページのエントリーシートに直接ご記入の上、事務局宛てにFAXまたはメールによるエントリーも可能です。

プログラム1:野菜くずから堆肥づくりにチャレンジ!

野菜から野菜をつくろう(※幼児向け)

プログラムの概要

- ◆保育園・幼稚園や家庭から出た野菜くずや食べ残しなどの廃棄食材を使って、堆肥づくりにチャレンジ。
- ◆可能であれば、さらにその堆肥を使って野菜や植物の栽培体験を行い、廃棄食材が資源として活用できることや野菜や植物の成長には堆肥(廃棄食材)が繋がっていることを学習することで、自然のメカニズムや資源循環について理解を深める。

プログラムの流れ(例)

- ①食事の時間などに野菜や食べ残しなどに触れて、廃棄食材に興味を持たせる。
- ②廃棄食材で堆肥づくりを行う(生ごみリサイクルセット等を活用)。
- ③(可能であれば)作った堆肥を使って、実際に野菜や植物を栽培する。

【ポイント】

- 長期間を要するプログラムのため、「堆肥づくり」の途中段階や堆肥づくりまでのとりまとめでも可。
- 廃棄食材と堆肥の関係がイメージできるように、工夫して園児たちに伝える。
- 堆肥が野菜や植物を育てていることを理解させられる工夫をする。
- 園児たちが植物や野菜への関心を高められるように工夫する。(水やりや観察、描写等)

(参考) 幼稚園教育要領による関兼する部分

- 1 心身の健康に関する領域「健康」 (3)(5)
- 3 身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」 (1)(6)

(参考) ESDの視点

- ◇多面的・総合的に考える能力
 - ・廃棄食材が堆肥となり野菜の栽培に役立つことへの理解
- ◇他者と協力する態度
 - ・協力し合いながら堆肥作りや野菜栽培などの作業を進める態度
- ◇つながりを尊重する態度
 - ・生物の多様性や循環型社会などの自然界や社会のつながりを理解し尊重する態度
- ◇進んで参加する態度
 - ・堆肥作りや野菜栽培などの作業に率先して参加する態度

プログラム2: 自分たちの地域や自然調べにチャレンジ!

地域まるごとウォークラリー

プログラムの概要

- ◆学校周辺の地形や土地利用、公共施設や歴史的建造物など、身近な地域の特色に触れることができるウォークラリーコースを設定し、地図を見ながらグループ毎にウォークラリーを実施。
- ◆ゴール後、ルート上で発見したことや気付いたことなどを発表し合うことで、自然、社会、産業などの面から、身近な地域の特色と自分たちとの関わりについて学習。

プログラムの流れ(例)

- ①ウォークラリーのコース、チェックポイントを設定する(ワークシート等を準備)。
- ②グループ毎にウォークラリーを実施。ルート上に設置した数か所のチェックポイントで、クイズなどの手法により確認事項をチェックしながらゴールを目指す。
- ③ゴール後、グループ毎にルート上で発見したことや気付いたことを発表し合う。

【ポイント】

- 身近な自然や特色などを盛り込んでチェックポイントやコースを設定する。
- チェックポイントでの確認は、特色が理解しやすい手法(クイズ等)を工夫する。
- 実施者・参加者のほか、地域の人たちとの協力など、ウォークラリー実施に向けた工夫やアイデアを考える。
- ゴール後のまとめ・発表では、自分たちと地域との関わりを再認識させ、考えさせる。

(参考) 学習指導要領による関連教科

社会(第3・4学年) (1)(4)

(参考) ESDの視点

- ◇多面的・総合的に考える能力
 - ・地域の暮らしを自然、社会、産業などの視点から多面的・総合的に考える能力
- ◇コミュニケーションを行う力
 - ・グループ内や地域の人々などと積極的に関わっていく態度・能力
- ◇他者と協力する態度
 - ・協力し合いながら課題解決に取り組む態度
- ◇つながりを尊重する態度
 - ・地域の様々な人々や自然環境と自分たちの暮らしとのつながりを理解し尊重する態度

プログラム3: 自分の地域の森を感じる体験にチャレンジ!

理想の森さがし

プログラムの概要

- ◆自分の身近な森の観察・体験を通して、森林とそこに生息する生き物や森林と自分たちとの関わりについて体験的に学ぶ。
- ◆自分たちが考えた理想の森林について自由な表現手法を用いて発表することで、自ら進んで参加する姿勢を養ったり、地域の森を理想の森に近づけるための意見交換などで、率先した行動を養う。

プログラムの流れ(例)

- ①一般的な森のイメージと森林をめぐる問題点などについて考え、自分たちの地域の森や山とでは、どこが一緒に違うのか考える。
- ②自分たちの地域の森の特徴について考え、実際に森に行き確認するものを決める。
- ③実際に身近な森に観察に行き、フィールドワークを通して、事前の確認し、発表に向けた材料を見つけながら、自分たちの考える理想の森をイメージする。
- ④自分たちが考える理想の森を表現する作品を作成し、発表する。

【ポイント】

- 地域の森の特徴を確認するためにはそういう方法があるか考える。
- どのような発表にするか考え、発表用のツールを見つけながら森を観察する。

(参考) 学習指導要領による関連教科

- 社会 (第3・4学年) (2)(3)(5)
- 理科 (第3学年) B 生命・地球 (2)
(第4学年) B 生命・地球 (2)
- 図面工作 (第3・4学年) A 表現 (1)(2)

(参考) ESDの視点

- ◇未来像を予測し計画を立てる力
 - ・地域の森林の未来像を考える能力
- ◇多面的・総合的に考える能力
 - ・森林のもつ様々な特徴や機能を多面的・総合的に考える能力
- ◇つながりを尊重する態度
 - ・地域の森林と自分たちの生活や産業とのつながりを理解し尊重する態度

プログラム4: 自然の絆を地域の川を通じて学ぶことにチャレンジ!

山と海をむすぶ「^{きずな}川」

プログラムの概要

- ◆身近な川の上流と下流に分かれ、それぞれ営まれている産業等を実際に体験。
- ◆体験を通して、産業と川とのつながりやその地域における川の役割などについて考え、地域における身近な川の重要性と、川を通じて地域のあらゆる産業や生態系などがバランスを保って支え合っていることをグループ毎の発表や意見交換等、互いの意見を尊重、理解し、融合していくことで学ぶ。

プログラムの流れ(例)

- ①二つのグループに分かれて、それぞれ体験学習や現地見学を実施する。
上流グループ：川の上流や山などで林業や植林などでの体験学習等
下流グループ：下流にあたる海岸や港などでの養殖や藻場づくりなどの体験学習等
- ②体験学習などを通して感じた川の役割や重要性について、グループ毎に話し合う。
- ③話し合った結果を地図などを用いてまとめ、発表する。
- ④発表後に意見交換し、互いの意見をどのように変えることでお互いにとって有益な意見・考えになるかを話し合い、融合させた意見、考え方を共有する。

【ポイント】

- 上流に山林が位置し、下流が海に繋がる地域の川をテーマとして設定する。(体験学習などができると、より学習効果が高まる。)

(参考) 学習指導要領による関連教科

社会 (第5学年) (1)イエ (2)イ
理科 (第5学年) B 生命・地球 (3)

(参考) ESDの視点

- ◇未来像を予測し計画を立てる力
 - ・自分たちが住む流域全体の視点から、地域の生活や産業の未来像を考える能力
- ◇多面的・総合的に考える能力
 - ・川が山と海をつないでいることについて多面的・総合的に考える能力
- ◇コミュニケーションを行う力
 - ・互いに自分たちの考えを伝えるなど、率先してコミュニケーションを行う態度・能力
- ◇つながりを尊重する態度
 - ・上流と下流、山と海など、様々な立場や考え方を理解し尊重する態度

プログラム5：海の役割と人とのつながりを学ぶことにチャレンジ！

地域の漁業を支えるつながり

プログラムの概要

- ◆身近な地域の漁業を調べ、地域と漁業の関わりや、現在漁業が抱えている課題を様々な視点から考える。
- ◆漁業が抱えている課題に対してどのような取り組みが行われているのかを調べること、環境の改善など、自分たちにできることを考え実践する。

プログラムの流れ(例)

- ①身近な地域の漁業と関連する産業について理解・学習する。
- ②漁業に関わる施設の見学や漁業従事者からの聞き取りや体験学習を行う。
- ③フィールドワークを通してわかった、地域の漁業が抱える課題とその取り組みについてまとめる。
- ④地域の漁業が抱える課題に対する取り組みとして、自分たちに出来ることを考え、行動計画表などを作成してまとめる。

【ポイント】

- 漁業の抱えている課題を多様な観点から考える（輸入量の増大による価格の下落、乱獲・環境悪化・水質汚濁・地球温暖化などによる水産資源の減少など）。
- 実際に漁業に関する作業や環境保全活動などを体験する。

（参考）学習指導要領による関連教科

社会（第5学年）（1）（2）

理科（1）植物の発芽、成長、結実（2）動物の誕生

（参考）ESDの視点

- ◇未来像を予測し計画を立てる力
 - ・地域の漁業を通じて、地域の自然環境や産業の未来像を考える能力
- ◇多面的・総合的に考える能力
 - ・地域の漁業が様々な産業や自然環境とその保全活動に関わっていることを多面的・総合的に考える能力
- ◇他者と協力する態度
 - ・地域の漁業が様々な主体との連携によって成り立っていること理解し、積極的に他者と協力する態度
- ◇つながりを尊重する態度
 - ・地域の漁業と自然環境や産業などのつながりを理解し尊重する態度

プログラム6: 大地と食と人のつながりを感じる体験にチャレンジ!

自然とともに生きる農業

プログラムの概要

- ◆米づくりや野菜づくりの体験を通して、安全な農作物と自然環境との関わりについて多面的に学習。

プログラムの流れ(例:米作りの場合)

- ①田植え後、田んぼの水位・水温、外気温、稲の生長等について定期的に記録・管理する。
- ②体験作業として、実った稲を刈り取る。
- ③自分たちが手伝った米を実際に調理して食べることで、地域とのつながりについて理解・学習する。
- ④農業と地域、自然、自分たちの生活との関わりについて、体験を通じた感想とともに発表する。

【ポイント】

- 近隣の小規模な田んぼを営む農家の方などに趣旨を説明し、協力をいただく。
- 稲の生長や自然環境の変化がわかる記録のつけ方を工夫する（写真や絵を用いるなど）。

(参考) 学習指導要領による関連教

理科（第5学年）

社会（第5学年）（2）

家庭科（第5・6学年）（3）

(参考) ESDの視点

◇未来像を予測し計画を立てる力

- ・地域の農業や自然環境の未来像を考える能力

◇多面的・総合的に考える能力

- ・地域の農業が自然環境や地域の暮らし、他の産業などに関わっていることを多面的・総合的に考える能力

◇他者と協力する態度

- ・農作業の計画作りや調理実習などで他者と協力する態度

◇つながりを尊重する態度

- ・地域の農業が自然環境や地域の暮らし、他の産業などに関わっていることを理解し尊重する態度

◇進んで参加する態度

- ・農作業体験などに率先して参加する態度

プログラム7:日々の暮らしと自然災害を考えることにチャレンジ!

自然災害と地域との様々なつながり

プログラムの概要

- ◆地域で過去に発生した特徴的な自然災害を取り上げ、地域の安全を確保するための施設や工夫を調べ、自分たちの身を守るための方法を考える。
- ◆自然災害発生のメカニズム、被害と自然環境・社会環境の関わりなどを学び、その関わりなどを学び、その結果を地図などにまとめて発表する。

プログラムの流れ(例)

- ①地球的規模で自然現象をとらえ、そのメカニズムや影響について理解する。
- ②自分たちの地域に被害を与えた自然災害を調べる。
- ③実際に施設等に見学に行き、ワークシート等を作成する。
- ④地域で起きた自然災害と自然環境や産業等との関わりについて、地図等を使って発表する。

【ポイント】

- フィールドワークではワークシート等を準備し、グループに分かれるなどして施設等の見学を行う。

(参考) 学習指導要領による関連教科

- 社会 (地理的分野) (2) 日本の様々な地域 イ(ア) ウ(ア)
(7) 自然と人間

(参考) ESDの視点

- ◇批判的に考える力・未来像を予測し計画を立てる力
 - ・将来に向け地域の自然環境を考えた土地利用や自然災害の被害の軽減等を考える能力
- ◇多面的・総合的に考える能力
 - ・自然災害が自然環境や土地利用など様々な要因で発生することを多面的・総合的に考える能力
- ◇他者と協力する態度
 - ・地域の被害状況や安全確保の取り組みなどを協力して調べる態度
- ◇つながりを尊重する態度
 - ・地域の産業構造や土地利用など、様々な主体の立場を理解し尊重する態度

プログラム8: エネルギーと自分たちの生活を考えることにチャレンジ!

エネルギーと新しい東北を考える

プログラムの概要

- ◆東北地方における再生可能エネルギー施設等の見学や実験等を通じて、エネルギー生産の原理や省エネルギーの重要性について学習。
- ◆自分たちが考える再生可能エネルギーを活用した新しい東北地方の将来像や自分たちの地域の将来像について意見交換し、それらの実現のために、自分たちにできることを考え、実践に向けて取り組みことを学ぶ。

プログラムの流れ(例)

- ①東北地方における再生可能エネルギーの利用状況等を調べる。
- ②再生可能エネルギーを実際に体験する（施設見学や実験等）。
- ③再生可能エネルギーなどの新しいエネルギーを活用した、自分たちの考える新しい東北地方の将来像や自分たちの地域の未来像などを考えてとりまとめる。
- ④とりまとめた将来像のために、自分たちが取り組めることや取り組むべきこと等について考え、意見を共有し、それらの実践を図る。

【ポイント】

- 体験学習にアイデアを盛り込んで、再生可能エネルギー等の原理を学びやすくする。
- 再生可能エネルギーなどを活用した新しい東北地方や、地域の将来像についてまとめ、その実施に向けた様々な課題について話し合う。

(参考) 学習指導要領による関連教科

社会（地理的分野） (2) 日本の様々な地域 イ(ア) ウ(エ)
理科（第1分野） (1) (3) (4) (7)
（第2分野） (7)
技術家庭（技術分野） B エネルギー変換に関する技術
（家庭分野） D 身近な消費生活と環境

(参考) ESDの視点

- ◇批判的に考える力・未来像を予測し計画を立てる力
 - ・現在の生活を見直し、持続可能な社会の未来像を考える能力
- ◇多面的・総合的に考える能力
 - ・現代社会を支える様々なエネルギーとその利用について多面的・総合的に考える能力
- ◇進んで参加する態度
 - ・自分たちで考え、共有した取り組みを全員で実践する際に率先して参加する態度

プログラム9:捨てられる資材を上手に使うってパーティにチャレンジ!

3RでPartyしよう!

プログラムの概要

- ◆地域で排出された木材等の廃材を活用して、食事をする際に必要なもの（食器やクロス等）を自分たちで制作。
- ◆制作したものをを使った食事会（Party）を開くことで、自分たちの活動の成果を実感するとともに、廃材を使って何ができるか等、自分たちの活動を振り返って考える。

プログラムの流れ(例)

- ①食事会に必要なものをできるだけ廃材を活用して用意する計画を立てる。
- ②食事会に必要なものを実際に自分たちで制作する。
 - ・廃木材を活用した食器（皿、スプーンなど）
 - ・廃棄される布や衣料等を活用したテーブルクロスやエプロン など
- ③自分たちで制作した食器等を準備し、自分たちで調理して食事会を行う。
- ④自分たちの活動を振り返り、廃材の可能性や自分たちの地域でできる工夫などを考え、共有する。

【ポイント】

- 食事会に必要な物を制作するための廃材をどこから入手するか等ユニークな計画を立てる。
- 自分たちの活動を地域の廃材排出状況とともにとりまとめ、新しい廃材の活用方法等、地域の新しい活動へ結びつける提案を行う。

（参考）学習指導要領による関連教科

- （中学校）公民 （4）私たちと国際社会の諸課題
技術家庭 （技術分野） A 材料と加工に関する技術
（家庭分野） （2）（3）
（高等学校）家庭 基礎 （2）生活の自立及び消費と環境
社会 公民 （3）共に生きる社会を目指して

（参考）ESDの視点

- ◇批判的に考える力・未来像を予測し計画を立てる力・他者と協力する態度・進んで参加する態度
- ・「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の社会経済の在り方が持続可能ではないことの理解
- ・望ましい未来のために、みんなが協力し合いながら、主体的に関わる能力や態度

プログラム 10: 地域の文化や伝統に触れて伝えることにチャレンジ!

伝統文化から地域を伝える

プログラムの概要

- ◆地域の伝統文化について調べ、実際に体験をし、伝統文化と地域の関わりを学ぶことで、自分たちの地域について改めて学び直す。
- ◆伝統文化を第三者へ伝えることによって、伝統文化や地域と自分たちのつながりを再認識することで、地域や文化に対する将来への責任や地域との相互性について考える。

プログラムの流れ(例)

- ①地域の伝統文化や伝統行事を調べ、実際に鑑賞や体験を行う。
- ②体験したことを第三者に伝えるための工夫や手法を考え、実際に自分たちで伝える。
- ③とりあげた伝統文化を通じて、自分たちの地域について改めて感じたことや、自分たちが伝統文化とどのように関わるかを考え、共有する。

【ポイント】

- 第三者に伝える機会は、学校行事や地域の行事、観光地との連携などを活用する。
- どのような方法で伝えると理解してもらえるか等、伝えるための手法を工夫する。

(参考) 学習指導要領による関連教科

社会(地理 A) (2)生活圏の諸課題の地理的考察

音楽 I II B 鑑賞

美術 I B 鑑賞

(参考) ESDの視点

- ◇多面的・総合的に考える能力
 - ・伝統文化を通して、伝統・歴史、風習、自然環境、生活様式など様々な要素を多面的・総合的に考える能力
- ◇コミュニケーションを行う力
 - ・伝統文化を伝えることを通して、様々な人々にわかりやすく伝える態度・能力
- ◇他者と協力する態度
 - ・伝統文化を伝えるために生徒同士が協力し合う態度
- ◇つながりを尊重する態度
 - ・伝統文化が地域の歴史、風習、生活等と関わりあっていることを理解し、様々な考え方や立場を理解し尊重する態度
- ◇進んで参加する態度
 - ・伝統文化を伝えることをなどに率先して参加する態度






東北地方ESDプログラム チャレンジプロジェクト エントリーシート

申込み日	平成25年 月 日
(1)応募プログラム	野菜から野菜をつくろう(※幼児向け)
	地域まるごとウォークラリー
	理想の森さがし
	山と海をむすぶ「川」
	地域の漁業を支えるつながり
	自然とともに生きる農業
	自然災害と地域との様々なつながり
	エネルギーと新しい東北を考える
	3RでPartyしよう!
	伝統文化から地域を伝える
	※いずれかに○印をつけてください
(2)プログラム実施場所 (県・市町村)	県 市町村(○で囲む)
(3)応募団体名 ※児童・生徒のみで応募する場合、(8)に保護者の方の氏名等をご記入ください。	団体名:
	学校
	NPO
	民間企業
	その他のグループ
※いずれかに○印をつけてください	
(4)代表者名	
(5)連絡先	郵便番号:
	住所(所在地):
	電話番号:
	FAX番号:
	メールアドレス:
(6)参加予定人数	
(7)実施予定時期	平成25年 月 日 ~ 月 日 を予定
(8)指導者・責任者(氏名・所属)	氏名:
	所属:

ご記入の上、「東北地方ESD チャレンジプロジェクト事務局」までお送りください。
■FAXの場合:03-6744-1249
■Eメールの場合:info@tohoku-challenge.jp

東北地方ESDプログラム チャレンジプロジェクト チャレンジ報告シート

① エントリー番号	×××××
② 実施プログラム	④ 山と海を結ぶ「川（きずな）」
③ 実施主体 (主な指導者の氏名)	〇〇小学校 氏名： 〇〇 〇〇
④ 実施日時	平成25年8月25日 ～30日
⑤ 実施学年・人数	小学5年生 10人、小学6年生 10人
⑥ プログラム実施内容 ※プログラム実施内容を 実施手順ごとに簡潔にご 報告ください。	<p>【導入】 =====</p> <p>参加児童らと話し合っ、〇〇小学校の近くを流れる「×××川」をテーマとしました。5年生のグループは、×××川の上流にある〇〇山付近を散策することとし、事前に〇〇山の周辺がどのような自然環境になっているのか、地図などから確認しました。児童の発案で地図上の建物などを色分けするなどして、地形をよりわかりやすいものにしたワークシートを全員で共有しました。</p> <p>一方、6年生のグループは、×××川の下流に位置する〇〇〇漁港や漁協を調べることにしました。〇〇〇漁港で採れる魚の種類などについて調べたほか、干満の違いなど、川と海のつながりについて事前に学習しました。</p> <p>【展開】 =====</p> <p>5年生のグループは、事前に作成したワークシートに気付いたことなどを書き込みながら、×××川の上流から〇〇山にかけて散策したあと、〇〇山近くで林業を営む△△△木材工業さんにお話を伺いました。また、実際に〇〇山から杉の木を伐採して運び出す現場を見学することができ、これらの木材や山に栄養を運ぶ役目をになっている×××川の役割について改めて実感することができました。</p> <p>一方、6年生のグループは×××川の下流に位置する〇〇〇漁協にお話を伺いました。漁港で採れる魚や漁の方法についてお伺いしたほか、漁師さんたちが休日に河口周辺のゴミ拾いなどを行って海の環境保護に努めていることなどを知りました。</p> <p>【まとめ】 =====</p> <p>5年生、6年生の各グループに、「×××川と〇〇山」、×××川と〇〇〇漁港について話し合い、それぞれの立場からの川の役割や今後の川との接し方などについて意見を出し合っ、まとめてみました。</p> <p>そのあと、5年生、6年生のグループで話し合いをおこなっ、山と海それぞれの立場からの川の役割を共有してお互いにとって最も理想的な川のあり方について意見をとりま、まとめてみました。</p>

<p>⑦工夫したポイント</p> <p>※実践において、自分たちの工夫やアイデアを加えた点について、できるだけ簡潔に記載ください。また工夫による効果などがあれば併せて記載ください。※全ての行程への記載は不要です。(工夫した箇所のみ記載で結構です。)</p>	<p>【展開】 =====</p> <p>△△△林業の話や実際の伐採現場を見学したあと、地域の郷土史などから林業や山の歴史について調べてみると、×××川の誕生や現在の川と十数年前の川では流れや形が違うことを知り、△△△林業も川の形が変わったあとに〇〇〇山で林業を始めた新しい産業であることが分かりました。</p> <p>児童たちは、昔の産業と川のつながりについても関心をもち、率先して調べては、話し合いの中で発表しあい、地域への愛着や関心を高め合う効果を生み出しました。</p> <p>【まとめ】 =====</p> <p>5年生と6年生の発表・話し合いを分けて実施しました。最初に5年生のグループの発表を聞いた6年生のグループは、山の歴史や産業と〇〇〇漁港や海産業の、川のつながり方の違いについて着目して考えをまとめました。比較しながら発表することで5年生も理解しやすい内容となり、山、海それぞれの立場で意見を述べ合う話し合いでは、互いの立場を理解しながら自分たちの意見を主張することができました。</p>
<p>⑧活動写真等</p> <p>※①【導入】から③【まとめ】まで、それぞれ1枚以上ずつ(計3枚以上)添付してください。</p>	<p>①【導入部分】 (×××川をテーマにしてワークシートに色分けしました。)</p>  <p>②【展開部分】 (〇〇〇山では山に住む生物についても調べてみました。)</p>   <p>③【まとめ部分】 (6年生グループは5年生グループとの比較から発表内容を検討しました)</p>  
<p>⑨実践を通じて感じたこと・考えたこと (児童生徒からの聞き取りや感想文等の抜粋で可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇〇漁港の人たちが自分たちの川を大切にしていることは、△△△林業さんと同じでした。色々な仕事や立場に人たちでも地域に住む同じチーム員として川を大切に守っていくことが大事なんだなと思いました。(小学校5年生 男子児童) ・自分たちが調べた漁港や海は、川を通じて川の上流の地域の人たちの川を大切にしている気持ちによって守られ、繋がっているんだな、ということに感動しました。(小学校6年生 女子児童)
<p>⑩代表者連絡先</p> <p>※エントリー時と変更がある場合のみ記載</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>変更なし <input type="checkbox"/>変更あり(下記に記載をお願いします)</p> <p>氏名 : 電話番号 : メールアドレス :</p>